

出版ダイジェスト

社団法人 出版協会 出版ダイジェスト

毎月3回(1日・11日・21日)発行 購読料1ヵ年=送料共1,575円(税込)

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-13 ラフィネお茶の水805 電話03-3292-2323 FAX03-3292-2325

<http://www.digest-pub.net/>

郵便振替 00190-3-95516

農文協
特集

2007-II

大胆にリニューアル! 「食農教育」定期購読のすすめ 学力と個性を伸ばす!



「野菜のたね」
プレゼント!

学校農園のアンケートで回答100校へ
(詳しくは3頁参照)



ご覧
下さい



大きな鋤をかかえてひたむきに畑を耕す子どもたち

学校と地域を 信頼のパイプでつなぐ

食と農ですすむ学校づくり

山形県高島町立井宿小学校校長・食農ネット山形地域研究会代表 伊澤良治

父母は「受験学力」を重視しているか？

今、教育改革が国レベルで盛んに論じられているが、父母は今日の教育や学校に何を求めているのだろうか。一昨年、全校の父母を対象にアンケートをとった結果から言えることは、まっとうで健全な願い・要望を持っているということである。「今後の教育の目標として大切にしたいこと」を二〇項目から三つ選択するという設問で上位三項目は「おもいやりの心」「いのちの尊重」「自ら学ぶ意欲と力」の順であった。

「学力充実」という項目は、予想に反して下から三番目であった。これらの結果の意味するところは何か。父母は、人間が幸せに生きるにはどんな資質がより大切か、自分の今日までの生き方から大切に思うことを考えたのであろう。自ら学ぶ意欲と力を持ち、温かい心で他人と共に前向きに生きる人間を育てる教育であってほしいと願っている。それは高い学力を身につけ、受験に勝つ教育ではない。

地域の知恵と技が

子どもと教師を変える

学力とは何かを考える。「土は嫌いです」と発言した教師が、最後の職員会議で、「わたしは変えられませんでした」と喜びと確信を持って発言した。何で変えられたのか。

その教師は、子どもと共に育てる、収穫する、食する、みんなで分かち合うという一連の流れのどの段階でも、強心を揺さぶられた。地域の人の豊かな知恵や技の確かさを発見した。また、子どもたちの暑さ

や雑草に立ち向かうたくましさ、ひたむきに感動したのである。地域には大根一本で、葉まで含めると約四〇種類の食べ方があった。豊かな食文化がある。子どもたちは、「土」と「農作物と食」を、知識としてではなく実感し体験し認識していった。ほんものの学力を獲得したといえる。地域の生活、自然、歴史・文化に学ぶことは、子どもをも教師をも変えていく。（次面へ）

教育をめぐる動きと 農文協の教育分野での活動

1978 昭和53 『農業基礎』
教科書で作物と家畜に学ぶプロジエクト学習を提唱



1984 昭和59 『日本の食生活全集』刊行開始

1986 昭和61 『第1回自然と食と教育を考える研究会』開催
『ふるさとを見直す絵本』『待ちの子育て』を刊行

1987 昭和62 『自然教育活動』創刊（『食農教育』の前身）
『自然とあそぼう植物編』『かこさしのたべものえほん』『江戸時代 人づく風土記』刊行

1989 平成元 学習指導要領改訂（生活科の新設）

1991 平成3 『保健室』の発行所に

1992 平成4 学校図書館巡回グループ
NCL発足

1993 平成5 『技術教室』の発行所となる
『日本の食生活全集』完結

学校図書館図書整備新五カ年計画



巻頭 レポート

土からの食育

地域が育てる「本物の学力」



子どもたちの代かきは土あそびそのもの

固有な名詞で呼べる関係が
できてきた

昨年の秋、地区文化祭で子どもたちが野菜の販売をした。子どもたちは、売人、お金を管理する人など役割分担をし準備した。販売一時間前から、もう地域の人が並んで待っていた。販売開始七分で、役割分担どころでなく、一年から六年までの各学年の野菜は完売した。

一番驚いたのは子どもたちが、期待と信頼のパイプで築きあげたものである。

いのちの教育と おらが地域の学校づくり

食農ネット山形地域研究会

「山形の将来を担う子どもたちの生きる力を培うため、地域と自然との結びつきを再構築し、山形の食農教育の推進を図り、いのちの教育の具現化と地域の中の学校づくりを進める」とを目的に、二〇〇六年三月に結成された自主的研究会。小学校長、教員、栄養

抽選で野菜のタネをプレゼント！ 学校農園アンケート

★該当する項目の数字をお書き下さい。

- (記入例)①、②③、③②
- (1) 学校農園について
 - (2) 既に開設している
 - (3) これから検討している
 - (4) 開設していない
 - (5) 学校農園で栽培されている作物をお教え下さい
 - (6) タイコン
 - (7) サツマイモ
 - (8) ジャガイモ
 - (9) トマト
 - (10) そのほか
 - (11) 学校農園の面積はどのくらいですか
 - (12) ①50㎡以下 ②51㎡～100㎡ ③101㎡以上

★学校名・ご担当者名・ご教育特集係



住所・お電話番号をご記入のうえ、ハガキで回答下さい。応募多数の場合、プレゼントは抽選でお届けします。野菜のタネは、ダイコン・小松菜・ニンジンから1種類(ご指定はできません)お送りします。

【送の先】〒107-8668 東京都港区赤坂郵便局 私信箱第15号 農文協「出版ダイジェスト」食農教育特集係

1996
平成8
教育総合展初参加

1997
平成9
「ルーラル電子図書館」CD-ROM版日本の食生活全集第15期中教審第一次答申(「生きる力」「ゆとり」)

1998
平成10
教育総合展で「食教育ゾーン」をプロデュース

1999
平成11
「食農教育」創刊(季刊)学習指導要領改訂文部省と農水省で教育をめぐる連携協議会発足

2000
平成12
「食生活コンクール」の事務局にのちに「食育コンクール」となる

2001
平成13
「食農教育」隔月刊化

2002
平成14
「総合的な学習の時間」刊行

2003
平成15
新教育課程(総合的な学習の時間、学校週5日制)スタート



2004
平成16
国際学力調査結果(PISA、TIMSS)結果公表

2005
平成17
地域に根ざした食農教育ネットワーク設立

2006
平成18
食育基本法制定
教育基本法改正
教育再生会議発足